

# 自治大卒業生の声

## 自治大学校卒業生（平成 30 年度マネジメントコース）

立川市役所 小林 直岐

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

### 1. はじめに

私は、「マネジメントコース」の研修生として、東京都立川市から自治大学校に派遣されました。「マネジメントコース」とは、自治大学校における実務と研修の両方を、1年間のうちに経験できるコースです。自治大学校に研修で来られたことがある方は、研修生の中に「特研生」と呼ばれている人がいたことをご記憶されているかもしれません。その特研生（特別研修生）とは、このマネジメントコースの研修生のことです。

本稿では、派遣期間を振り返るとともに、実務と研修の両方を経験できるマネジメントコースの意義について、私なりの感想を述べさせていただきます。

### 2. マネジメントコースの概要

私が派遣された平成 30 年度は、全国から 8 人がマネジメントコースの研修生として集まりました。そのうち私を含む 5 人は、5 月上旬～9 月上旬に基本法制 A および第 1 部課程の研修を受け、その他の時期は実務にあたりました。他の 3 人は、10 月下旬～2 月中旬に研修、その他の時期が実務でした。

平成 30 年度は、実務の期間に研修の運営を行う「教務部」に配属される人と、自治大学校教授のもとで業務を行う「教授室」に配属される人に分かれました。私はこのうちの「教授室」に配属されました。

### 3. 研修の期間

マネジメントコースの研修生は、一般の研修生と同じ基本法制 A と第 1 部課程の研修を履修します。

基本法制 A は、「地方自治制度」や「行政法」などの地方行政の実務に関係の深い法律科目を、1 か月の短期集中で学ぶ研修です。入庁時の研修等で学んだときとは異なり、ある程度の実務を経てからの研修であるため、生きた知識として吸収されたという印象を持ちました。この短期間で法律を理解することは不可能にしろ、むやみに法律を恐れない、法律は使いこなすべきものだ、という意識は持つことができました。

第 1 部課程では、各界の著名な講師による講義と、演習が行われます。とくに自治大学校では演習が重視され、時間割上だけでも「政策立案演習」「条例立案演習」「データ分析演習」といった演習科目が半数以上を占めるほか、課外での作業や討議を含めると期間中の大半の時間を演習に費やしました。一つ演習の課題をこなしてもまたすぐ別の課題の締め切りが迫るという演習漬けの日々でしたが、これにより、自ら調べ、考え、議論し、その結果をまとめる経験を繰り返し積むことになりました。

また、こうした期間中も、あとで教授室の実務に就く際にも生かせるよう、研修の課題と解決策を頭の片隅で考えながら過ごすよう努めました。

### 4. 教授室における実務の期間

研修の受講期間が終わると、立場が変わって研修の運営側の実務に回ります。

私が配属された教授室の業務は、一言でいえば自治大学校の教授の補佐をする業務

です。教授は総務省の若手職員で、「地方自治制度」等の講義や演習の講師をするほか、研修のありかたの検討を行っています。

教授室では、次年度の演習で使用する「事例テキスト」を、教授の指導のもとで作成する業務が中心となります。テキストの作成は、テーマこそ指定されたものの、実際の作業はほぼ任せられます。そのため、テキストがどのように使われるかを念頭に置き、自ら調べ、考えて作成するという過程が必要とされ、まさに研修で学んだことを直ちに実践することとなりました。

また、教授が研修の改善を検討する際には、研修を受けた立場からの情報提供を随時行いました。その成果として、研修生が使用する「演習の手引き」の全面改訂作業にも携わりました。

そのほか、研修を受けた立場から見て必要と思われる新しい講義を提案するよう指示があり、私は2つの講義を企画して実施につなげました。

最後に、副次的なものとして、教授の存在そのものが挙げられます。私の派遣期間と在職期間が重なった教授は3人で、全員30代半ばで私と近い年齢でした。しかし、自治大学校に赴任するまでの間に海外派遣や地方での要職を経験しており、また地方自治にかかる知識量や、判断の速さとの確さは舌を巻くほどで、このこと自体が大いに刺激になりました。

## 5. 研修と実務の両方を経験する意義

以上のとおり、教授室における実務では、研修で学んだことをすぐに生かしたり、研修の受け手として見つけた課題を改善したりするなど、研修を受けた直後ならでの役割を果たすこととなります。言い換えれば、研修と実務は別個のものではなく、相乗効果を生む関係だと言えます。双方の立場を短い期間で経験できることにこそ、マネジメントコースの意義があると考えられま

す。

1年間の派遣の効果として、①日常の業務を広い視野から捉える習慣がついた、②知識の下地ができたことで業務に関する勉強の理解の速さが飛躍的に上がった、という実感はあります。派遣の意義の有無は自分で考えることではなく、成果で表されるべきことではありますが、少なくとも私自身は十分にその意義を感じています。本稿が派遣の前向きな検討の参考となれば幸いです。